

平成24年行政事業レビューシート (環境省)

<b>事業名</b>		<b>重要湿地保全再生推進事業費</b>		<b>担当部局庁</b>	自然環境局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>		平成25年度		<b>担当課室</b>	自然環境計画課		課長 亀澤玲治		
<b>会計区分</b>		一般会計		<b>施策名</b>	5-2 自然環境の保全・再生				
<b>根拠法令 (具体的な条項も記載)</b>		-		<b>関係する計画、通知等</b>	生物多様性国家戦略2010				
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>		生物多様性保全の観点から我が国の重要な湿地を500ヶ所選定した「日本の重要湿地500」は、保護区設定やラムサール条約湿地選定の根拠となったり、開発案件における保全上の配慮を促す根拠となったりしているが、選定から10年以上が経っているため、現在までの変化を把握し見直すことにより、最新の科学的・専門的な知見と情報に基づく湿地保全の基礎資料として有効なものにする。							
<b>事業概要 (5行程度以内。別添可)</b>		重要湿地の見直しのために、過去と現在の湿地の状況判断材料として、航空写真、植生図、土地利用図など客観的なデータを使用した情報収集を行い、また、検討会を開催し、重要湿地500の加除や、保全への活用方法を検討する。							
<b>実施方法</b>		<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
		予算の状況	当初予算	/					12
			補正予算	/					
			繰越し等	/					
		計	/					12	
		執行額	/						
執行率(%)	/								
<b>成果目標及び成果実績 (アウトカム)</b>		<b>成果指標</b>			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
		現在の日本の湿地の状況を、その水源地域の情報も含めて把握し、「日本の重要湿地500」を改訂する。完成度を評価する単位は無く、定量的な評価はできない。		成果実績	-	-	-	-	-
<b>活動指標及び活動実績 (アウトプット)</b>		<b>活動指標</b>			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
		情報収集及び検討会開催を通じ、重要湿地500の改訂を行う事業であり、定量的な活動指標の設定は困難。		活動実績 (当初見込み)	-	-	-	-	( - )
<b>単位当たりコスト</b>		-		(円/ - )	算出根拠	-			
平成24-25年度予算内訳	<b>費目</b>	24年度当初予算	25年度要求	<b>主な増減理由</b>					
	環境保全調査費	0	12	-					
	計	0	12						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	湿地の専門家から重要湿地500の改訂の必要性が訴えられているほか、湿地生態系の保全が豊かな水産資源を保全することにつながるなど、生態系サービスの提供という観点から優先度は高い。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	支出先は競争入札を経て選定。本事業の受益者は湿地生態系の生態系サービス(湿地の恵み)を受ける国民一般であり、特定の受益者は存在しない。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	—	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	成果は、保護区設定及びラムサール条約湿地選定の根拠や、開発案件の環境影響評価において保全上の配慮を促す根拠となる。
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	※類似事業名とその所管部局・府省名	
点検結果	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	日本の湿地は、その生物多様性の高さに反し、様々な事情で保護区となっていない箇所が多く、埋立等の開発により劣化・消失の危機にさらされている。この状況の中で、保護区化されていない箇所においても開発に対して配慮を求める根拠となる重要湿地500は、定期的に情報を更新し有効なものにしていく必要がある。
	—		
予算監視・効率化チームの所見			
		生物多様性の保全を推進するためには、湿地の保全は大変重要であるが、効率的かつ効果的に事業を実施するよう努めること。	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	—	平成23年行政事業レビュー	—